

平成 28 年度に実施した保存処理

ひさごづかこふん 瓢塚古墳出土鉄製品

- 1 出土地点 掛川市吉岡・高田
2 発見時期 明治 30 年代

瓢塚古墳は、国の史跡に指定されている和田岡古墳群の一つで、古墳時代中期に造られた全長 63m の前方後円墳です。

明治 30 年代（約 120 年前）に調査され、
埋葬施設は木棺を粘土で覆った粘土窓で四獸
形鏡 1 、振文鏡 1 、勾玉 2 、管玉 2 、鉄劍
片、鉄鎌が発見されました。これらの出土
遺物が、平成 27 年度に掛川市へ寄贈されたた
め、保存処理を行いました。

かくわかなづかこふん 各和金塚古墳出土鉄製品

- 1 出土地点 掛川市各和
2 発見時期 昭和 55 年

各和金塚古墳は、国の史跡に指定されている和田岡古墳群の一つで、古墳時代中期に造られた全長 66m の前方後円墳です。埋葬施設は、長さ 4.75m 、幅約 0.8m の竪穴式石室であることがわかっています。

昭和 49 年（1974）盗掘に遭い、武器（鉄刀、鉄劍、鉄鎌、鉄鎗）、武具（短甲、冑）、工具（刀子、鉄斧）、農具（鎌）などが残されていました。昭和 57 年に保存処理を行いましたが、30 年以上経過し錆が進んできたため、鉄鎌、鉄鎗、鉄斧の再処理を行いました。



第 13 回

出土文化財展

日時：平成 29 年 6 月 14 日（水）～6 月 18 日（日）

場所：掛川市立中央図書館 1 階生涯学習ホール



平成 28 年度に実施した発掘調査

わだおかこかんぐん よしおかおおかこふん 和田岡古墳群 吉岡大塚古墳（第 7 次）

- 1 調査地 掛川市吉岡
2 調査原因 史跡整備事業に伴う調査
3 調査期間 平成 28 年 9 月～平成 28 年 11 月

和田岡古墳群は、原野谷川が形成した河岸段丘の南北約 2.5km 、東西約 1km の範囲に造営された古墳群で、古墳時代中期（約 1,600 ～ 1,500 年前）に築かれた前方後円墳 4 基と凹墳 1 基が、国の史跡に指定されています。原野谷川中流域を治めた有力者の墓とされています。

その中の一つである吉岡大塚古墳は、全長 55m の前方後円墳で、平成 19 年度から史跡整備に向けて発掘調査を行ってきました。

平成 28 年度は、墳丘の斜面に積まれている葺石の石材鑑定を行いました。その結果、葺石の石材は、古墳がつくられた地盤に含まれる石ではなく、原野谷川の川床に見られる砂岩であることがわかりました。大きく扁平な石を、段丘上の古墳まで人力で運んでいたと思われます。吉岡大塚古墳には、たくさんの葺石が使われています。古墳をつくるためには多くの労働力が必要だったことが、このことからもうかがえます。

吉岡大塚古墳は、これまでの調査成果を基にして、平成 29 年度から古墳の整備工事に着手し、古墳が造られた当時の姿を部分的に復元していきます。



吉岡大塚古墳



確認された葺石

よしおかしたの だん

吉岡下ノ段遺跡（第14次）

1 調査地 掛川市吉岡

2 調査原因 茶園の改植に伴う調査

3 調査期間 平成28年7月～平成28年11月

吉岡下ノ段遺跡は、吉岡の台地上にある、縄文時代中期から平安時代の遺跡です。今回の調査地点は春林院古墳の西側で、台地の縁近くに位置し、見晴らしのよい場所です。

調査では地面を掘り下げて床面が作られた縄文時代の竪穴住居跡が1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡が5軒、地面に柱穴を掘って柱を立てた掘立柱建物跡が2棟見つかっています。

縄文時代の竪穴住居跡の平面形は直径約5mの円形であると考えられます。遺構の残りはよくありませんでしたが、壁溝と呼ぶ、壁際に掘られた溝が確認できました。住居跡の内外で土器や石器が見つかったことから縄文時代中期（約5,000年前）の住居跡と考えています。



縄文土器出土の様子



縄文土器



石器出土の様子

古墳時代の竪穴住居跡5軒の内、全体の大きさが分かるものは2軒で、平面形は隅丸方形で、大きさは約6m四方のものと約3m四方のものでした。竪穴の深さは5～10cm程度でしたが、住居の床には煮炊きに使われた炉の一部が残っていました。住居跡からは古墳時代前期（約1,700年前）の土器が見つかっています。



古墳時代の竪穴住居跡（6m四方）



調査区遠景（東側上空から）



縄文時代の竪穴住居跡

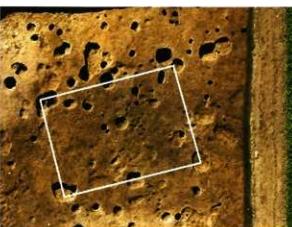


古墳時代の竪穴住居跡（3m四方）



住居跡内で見つかった炉跡（断面）

掘立柱建物跡は、1×2間（3.8×6m）と1×3間（4×8.5m）の2棟が見つかりました。どちらの建物も柱の穴の形が四角形でした。隣接する高田上ノ段遺跡でも、1×3間（3.75×7.8m）の規模の掘立柱建物跡が見つかっていますが、今回の調査では、それよりもさらに大きな規模の建物で、市内最大の掘立柱建物跡となりました。



掘立柱建物跡（1間×2間）



掘立柱建物跡（1間×3間）

その他に弥生時代後期（約1,800年前）の土器、古墳時代中期（約1,600年前）の土器などが見つかりました。土器の多くは、縄文時代では深鉢、弥生時代から古墳時代では壺、甕、壺坏といった生活に使われたものが多く見つかっています。また、古墳時代の剣形の石鏡模造品と呼ばれる祭祀に使われたと考えられている遺物の破片も見つかっており、生活の中で祭祀が行われていたことがうかがえます。

明和7年（1722）5月21日（陰暦）、現在の長谷小出ヶ谷地区において鍬鋤一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク